

富山市総合計画審議会第4回潤い部会 概要

場所：富山市役所議会棟8階 第4委員会室

日時：平成18年7月11日（火）

9:55 ～ 11:40

1 開会

2 企画管理部長あいさつ

老月企画管理部長あいさつ

6月30日（金）に基本構想（案）について諮問したが、本日は潤い部会としてさらなる議論をお願いし、答申として取りまとめをさせていただきたいと考えている。

3 部会長あいさつ

中村部会長あいさつ

本日は、この前示された基本構想（案）について、潤い部会としての意見をいただきとりまとめていきたい。基本構想は、富山市総合計画の幹となる部分であるため、是非とも活発な議論をいただきたい。

4 議事

- ・総合計画基本構想（案）について

< 概要 >

（部会長） まず、本日配付された資料について説明をお願いしたい。

（事務局） 資料について説明

（部会長） 本日配付された資料について、体系図について、ご質問等はないか。

（委員） 体系図は、繋がりをイメージするのではなく、いままで5つの部会で検討してきた枠の中で一つひとつ見れる方が分かりやすい。分け方を工夫し、重要度が分かるようなグループ分けが必要である。

（委員） 富山市を取り巻く状況の中に、中山間地の過疎化が状況の一つとして挙げられているが、主要課題を飛び越して、まちづくりの目標の中に出てくる。課題として掲げられているか。

コンパクトなまちづくりについて、6町村の生活拠点地域をどうするかは明らかにしているが、その生活拠点地域を取り巻く周辺地域、中山間地域を課題にするべきではないのか。その方向性が曖昧というか、触れていない

のではない。

中山間地域を含む周辺地域は面積は極めて大きい。そこに集落が点在し、人口が極めて少ない。行財政の面から言えば効率の悪い地点だが、そういう所に居住者がいる限りは、除雪もしないと、消防車や救急車が通らなければならない。まちなかへ移っていける人は良いが、その地域に根差して共に生活していこうと思っている人達をここで何か表現してあげないといけないのではない。そこで住まう人達の居住性を推進する必要があると感じる。

(部会長) 潤い部会では、中山間地に住む人も都心部に住む人も、それぞれのライフスタイルで暮らすという事が潤いの追求であるとの考えから進めてきた。基本理念やまちづくりの目標の中にも含まれていると感じる。今おっしゃった事は、全ての施策の中で反映させなければならないことであり、主要課題の中でも述べられており、今後は、基本計画、実施計画の中でも述べていく事も必要だ。過疎化、空洞化についてどのように認識するかがコンパクトなまちづくりに凝縮されているように思う。

(委員) まちづくりの主要課題については、コンパクトにできており、ソフト面が表面に出ている事が特徴かと思う。しかし、その中味には、農工商という面があまりはっきりと出ていない。農工商は基本的な事であり、その外に福祉もあれば教育もあるのではない。もう少し斬新な表現があれば良いと思う。12項目の中に農業の事があまり書いていない。

合併をして2年目に入っているが、新聞を見ていると、中心市街地の活性化の問題が表面に出ているが、このままこれが進むとすれば、山村というのが無くなり、中山間地にいる人達が、旧の富山市ではなく、八尾と旧富山市との中間に集まってきている。農業の面から言えばそういった所は、収益的に一番良い地域である。そういった所の農地を潰していけば、やがて農業がどうなるのかという問題もある。富山市の人はごみごみした所にいないで、ゆったりとした郊外へ出ていく。同時に中山間地の人達は、富山市へ出るよりも中間地点へ出てしまう。通勤の事を考えると今は交通が発達して影響がない。さらにもっと便利の良い所へ動いてしまう。それを考えると、将来の農業をしっかりと位置付けしておかないと大変なことになると感じる。

森林政策と環境問題は密接な関係がある。そこに力が入っていないのではない。森林が荒廃して様々な問題が出ている。木は、植えて、育てて、切って、使って、また植える。それを繰り返す事が循環型の林業である。これによって地球温暖化の防止にもなるし、森林災害を防ぐことにもなるし、水や空気といったものにも大いに貢献してくる。

山の手入れも、サポートセンターやきんたろう倶楽部などが出来ているが、これらに集まってきている人達では、しっかりとした森林整備は出来ない。簡単な仕事は出来るが、プロ的な仕事となると5年10年の経験者でないと現場の整備は出来ない。そういった面が大事であり、そういったことを総合

計画で述べておかないといけない。

(部会長) 主要課題の１２のうち、森林政策・環境政策に、委員のおっしゃたことが触れている。委員のおかげだと思う。個別の施策は基本計画や実施計画で煮詰めていく。

(委員) 現在、富山県は９５％が外材使用である。県内でとれる材木はわずか５％しか市場性がない。これで公益的機能が発揮できるのか疑問である。地元のもは地元で使うという事をやっていかないといけない。森林を整備しておかないと、水や空気など全ての事に影響がでてくる。

(部会長) 本当にコストが低くて良いものは、皆が使うはずである。それがビジネスに乗らないということは、様々な問題があり、それを放っておけば良いものでもなく、ユーザーが県産材の良さを知らないだけかもしれない。そういった事も含めて基本計画や実施計画で考えていかないといけない。

(委員) １２項目は非常に良く出来ていると思うが、地域の強化が非常にあっさりとか書かれている。今は行政ではどうにもならない状況にきている。今、まちを動かしているのは、最下部の組織、住民達が一生懸命に構想を練り自分たちで、ある程度お金を集めて動いて、活性化させている面が多い。実際にまちを動かしているのは、ボランティア団体であり、住民組織であるのが現実だと思う。それは中心から離れた旧町村でなんとか生き残っている。このことから地域の強化について力を込めて表現して欲しい。また、地域の意見を規制で押し切らずに余裕を持って規制緩和を行って欲しい。

(部会長) 地域力の強化に限らず、産業にしても魅力の発信にしても全て、市民と行政の協働でないと成り立っていかない。ご指摘のことは全体にわたる根幹に関わることだと思う。協働については、主要課題とまちづくりの目標との兼ね合いを考えていきたい。

(委員) 富山の魅力の発信について、水に関することが書かれていない。豊富な水についてアピールして欲しい。

(部会長) どのあたりに、どのように書き込むか議論がある。

(部会長) ６月３０日に配布された資料などでも構わないが、意見はないか。

前回の協働部会において、この潤い部会に関して議論になったことは、公共交通の利用促進と書いている一方で、道路網を整備すると書かれている事について、今後は公共交通の方が大事であるという意見が他の部会長から意見があった。また、私からは、公共交通で全てがカバーできるものでもなく、

合併後の富山市中心から旧町村へのアクセスは充実しているが、それらを相互に繋ぐ道路がまだ不足しているという事がこれからの課題と報告した。

(委 員) ここでいう公共交通は、レールの事を言っているのか。

(部会長) レールを含め、バス・鉄道等の輸送機関である。道路を造らないとバスは走れないという事でもある。

(委 員) 公共交通や歩いて暮らせるまちづくりにも関係すると思うが、自転車置場や自転車に関する事が書かれていないのではないかな。平坦なまちなかでは自転車は結構便利であるが停める所がない。コンパクトなまちづくりの中に自転車も取り入れられるとすれば、どのような事が必要なのか。

ライトレールが開通した時に話題にもなったが、自転車をライトレールに乗せ岩瀬まで行き、自転車で岩瀬のまちなかを散策してまた帰ってくるといった事をイメージすると、観光客も手軽に乗れることに繋がるのではないかな。どういう整備をしていけば利用しやすいかというのだ。

(委 員) 市の独自性がない。それぞれのまちに特徴があれば人の流れが生まれる。富山市は何を主体にしてまちを広げていくのか分からない。緑をもっと増やす必要があるのではないかな。中心部に少ないのではないかな。大きな緑地帯を造るべきではないかな。

(委 員) 富山の特徴について、優等生でおとなしい事は良いことであるが、特徴づくりが必要である。特化して絞り込んだ特徴づくりが必要である。

(部会長) 基本構想には、最低限必要な、どこに住んでいても、市民として保証されなければいけないもの、つまり普遍的な部分と、富山市独自のものを書き分けていかなければならない。

(委 員) 富山の自然をアピールした観光がある。富山で泊まってもらう観光を考えるべきではないかな。

(委 員) コンパクトなまちづくりで、まちなかの定住人口を増やし賑わいを取り戻すことは結構だが、どこから来てもらうのか。ターゲットは、旧6町村の中山間地を含めた生活拠点地区の周辺地域ではないのかな。

(委 員) コンパクトなまちづくりは、いわゆる串団子構想といわれ、各まちを幹線や鉄道で繋ぎ、沿線地域を整備して居住を進めると聞いている。そうすると、都心部に人が来なくなるのではないかな。矛盾があるのではないかな。

(部会長) この潤い部会でも議論されてきたが、人は、そのライフスタイルに応じて住みたいところに住む事が潤いに繋がる。ところが、今の都心部は住める状態ではない。住みたい人や高齢者の受け皿としてあっても良いのではないか。

まずは、個々人の選択を提供することから始める事が大事ではないか。国全体で人口が減っている中、全ての地域に人が来る事はあり得ないが、今のよう分散して住むことは良い状態ではないと思う。それを解決するための機会として、コンパクトなまちづくりがあっても良いと考える。

(委員) 今のまちなかは以前と比べて静かになった。駐車場ばかりが目立つ状態である。地価も郊外と変わらない状況である。空洞化している。交通機関も発達しており歩いて暮らせる環境である。もっと人が来て欲しいと思っている。

(委員) 10年先の生活スタイルは私自身も見えてこないが、人が住めるエリアを許可しないものの一つの方法ではないか。10年先の生活スタイルとして、普段の仕事の生活はまちなかにあって、増えた時間の過ごし方として、日常生活とは違うどこかに行く。まちなかと周辺のバランスが難しい。

(部会長) 10年先のライフスタイルを想定するのは確かに難しいかもしれない。優良な農地を潰してまで居住環境を提供する時ではない。

(委員) 今までの話を聞いていると、何かをやってもらう話が多い。自分達のまちを皆でがんばって、努力して創る状況がみられない。これでは、良くなる訳がないと思う。住んでいる人達の理念を高め、もっと大人になってもらうべきである。

ハードよりも人づくりが大事ではないか。日本の地方都市はどこも同じような状況であり、総合計画も同じである。これではどこもうまくいくとは思わない。特に人づくりに重点をおき、小中学校を管轄している富山市が素晴らしい理念を持って、素晴らしい人を創るということをしなければならない。高い理念を持った良い先生を集めてくる必要がある。

(部会長) 人づくりは非常に大事である。協働は、自分たちでやってくれという行政のメッセージだと思う。協働の仕組みを作り、そのためのサポートをしていく、その代わり、行政も成果指標を掲げ責任を持つというスタンスではないか。

(委員) ニュージーランドでは学校で学んだ事と同じ職に就くと聞いた。また、スイスのまちづくりの方法などについても参考として良いのではないか。

(委員) 外国と比較する場合はもう少し検証する必要がある。

(委 員) 先日来県した農林水産大臣が、ますの寿司を外国に輸出したらどうかとも言っていた。良い話だと思う。

(部会長) そういった話が市民から出てきた場合に、行政が障害となっているのであればそれを取り除くという、行政と民間との関わり方はそこが基本であると考える。

スイスなどは、土地の利用について厳格な規制があるのではないかと。私たちの社会でそれが良いのか、官と民の関わり方、行政と市民の関わり方の問題がある。従来は官と民の明確な役割があった。今ここで話しているのは、協働ということで、一緒にやってみようということである。

公をどうやって創るかというのは、理念として考えるとすれば、モラルではないか。

(委 員) 基本構想というのは、玉虫色にならざるを得ないのではないかと。実際に実行に移していくのは実施計画で体系化されると思うが、税収がどのように推移していくのか、借金がどの位推移していくのか、基本計画には必要である。

市の関係者も市民であり、ゆとりや潤いであれば、率先して残業をなくすなどすれば良い。また、NPO や何かしらの団体に属していれば変化も表れるのではないかと。

(部会長) 今後、地方財政システムは劇的に変わると思う。公表されている市のバランスシートなどを見て判断することも必要。

(委 員) 行政センターの機能が弱体化しているように感じる。地域のリーダーシップをとるのはどこかという問題がある。地域の事はみんなで考えようという事になっているが、もう少し権限を持たせるようにして欲しい。

(部会長) 協働部会で協議してまいりたい。

(委 員) 強化され過ぎると、そこを通さないと何も出来なくなる危険性がある。

(部会長) 行政センターでどこまでの仕事をする事になるのかということと、権力の集中の問題か。他に何かないか。

(委 員) 道州制について部会長はどのように考えるか。

(部会長) 私見だが、市町村の役割が大きくなる。マネジメントできない市は廃れるであろう。

(委 員) 国からお金をもらうのではなく、市が独立して収益を上げるような理念が

必要。人に頼るのではなく、一人ひとりがまちを変えるという意識の方向づけが大事である。

（部会長） 都市像の「活力都市とやま」がそのような事を象徴しているように感じる。自分達がやれば良いまちになるし、自分達も幸せになれるという考えではないか。

ご意見がないようであれば、これで終了させていただく。7月18日に協働部会が開催されるので、ここでの話を報告します。

5 閉会

（以上）